

3

西湯浦牧野（仲組、中無田原野） 大規模野焼き再開事業



- 実施主体 西湯浦草原再生委員会（阿蘇市）
- 実施場所 阿蘇市西湯浦（仲組、中無田原野）
- 実施期間 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

◇背景・ねらい

平成 26 年 4 月に第 1 回目の火入れを実施した野焼き再開事業も 3 年目となり、地域の草原再生事業への理解や取り組み姿勢も大きく飛躍し、草原再生事業を通じて地域の今後の在り方、伝統技術の継承、地域経済と草原の結びつきについて大いに議論が行われるまでになってきた。草原の営みが地域発展の糸口となることを期待する。

◆実施概要

- ①ヒコバエの除去
- ②灌木除去
- ③防火帯の輪地切り、輪地焼き
- ④野焼き（火入れ）

H27 年 3 月に第 2 回の火入れ後、3 年目の取り組みとして、藪化した灌木の除去作業と昨年度に除去作業を行った灌木のヒコバエ撤去を重点に実施した。

⑤地域学習の受け入れ

本年は、秋の干し草刈り時期に内牧小学校西湯浦地区児童の地域学習を受け入れた（保護者含め約 25 名参加）。牧野組合のトラクター乗車体験、牧場の筑後川源流での水遊び、昼食は西湯浦園地の草原でおにぎり、午後は中無田原野での干し草くびりと草小積み体験した。女子生徒の積極的な取り組みが印象的だった。

◆実施体制

- ・牧野組合員、原野組合員、阿蘇市、熊本県、自衛隊隊友会（延べ約 150 人日の参加）、野焼き支援ボランティア（延べ 110 人日の参加）の皆さんと連携して事業を進めている。

◆成 果

- ・火入れ面積 45ha の草原再生に着手して 3 年目となるが、内牧温泉街から見ると荒れた灌木が除去され草原に戻っていく様子が覗えるようになった。
- ・H28 年 3 月の火入れ作業では、見違えるほどに火の入りが良くなり、草原の再生が進んでいる景観が感じられるまでになってきた。

◆実施者の感想

H28 年 4 月の熊本地震、6、7 月の大雨で草原再生ゾーンの被害を心配したが、人の手が頻繁に入っている草原再生ゾーンでは大きな被害もなかった。一部の谷は崩壊したものの、草原（山や森）は人々の手が入らなくなった所ほど被害が出ているように思う。

やはり草原や森の維持管理の取り組みは大事であると感じている。